

秋葉区

新津東部地区 散策マップ



企画・制作／新津東部コミュニティ協議会
〒956-0816 新潟市秋葉区東町 1-5-12 TEL:0250-23-0780

1 袈裟掛け地蔵 北上



言い伝えは、むかしこのあたりが新発田藩領のころ、ここには年貢米の積み出しの船積み場があった、ある年、年貢米の船積みの際に手落ちや、不合格米を出した者があり、その者は藩の役人にその場で斬られてしまった。のちに地蔵を建ててこの者の供養をしたが、その地蔵は袈裟がけの様な形に壊れたとも言われている、あるいはこの時地蔵のかけに隠れたところを、切り下した刀が地蔵を袈裟がけにしたとも言われる。こうしたことからいつともなしに「袈裟がけ地蔵」と呼ばれるようになったが、どこまでが真実かいづれにしても昔の藩政時代の暗い一面を見るような話である。

2 十王寺 北上



創立は寛永13年(1636)紀州の僧侶が十王の像を刻み、名主「加藤藤七郎の霊と併せて之を祀った」と言われている。昭和17年3月曹洞宗に改宗し、昭和29年5月に十王堂を十王寺に昇格改称した。本尊は十王大閻魔像、昭和52年7月に再建し現在に至っている。敷地内には六地藏のお堂も有ります。

3 須賀神社(天王様) 北上



祭神は須佐尊、祭神は明治の頃北蒲原郡豊浦町天王(福島湖の近く)の須賀社(牛頭天王)より分祀、牛頭大王は治水、水難の神様として崇敬されていた。その後は水難者も出なかった。その後大正2年御神堂を流失昭和11年4月再建、昭和56年日吉神社と共に移転、村の人は須賀神社を天王様とも呼んでいる。

4 日吉神社 北上



祭神は「大山 昨命」(配神に天照皇大神、須佐雄神、宇迦御魂神、元和9年(1623)6月近江の国坂本村鎮座の官幣大社「日枝神社」分霊を勧請したと言う説より、180年北上興野開基の際産土神として安置したと言われている。新津勝彦山谷城の鬼門除けとして信頼厚く神像一体を納めたが子孫が、会津へ移転の際持ち去ったとの伝えもある。本社及び境内社(神明宮、熊野社、稲荷社)は明治24年12月に全部消失し、本社はその後再建したのが境内社は全て合祀した。昭和56年7月に現在の場所に移転。

5 -1 鎮宅霊符塔 東町



現在東町となっておりますが、能代川が出来るまでは金沢町の地名でありました。鎮宅霊符(妙見様)のご本尊は金沢町3丁目石津家のお家で祀っております。金沢町農家組合で毎年9月1日に妙見様のお祭りを長く続けて行っています。鎮宅霊符とは火災予防、家内安全の護符を言いますが、北神妙見大菩薩(妙見様)で北極星の神格化したものと言われています。

5 -2 餓鬼地蔵 東町



餓鬼地蔵は江戸末期の飢饉で餓死した人達をここに埋め、その供養のために建てたと伝えられている。明治中ごろ此処を通る人に時おり死者の霊が取りついたと言う事があり、その人は急に耐え難い空腹を感じて倒れるという症状に襲われたと伝えられています。

5 -3 百万遍念仏塔 東町



明治22年現在の新津一新発田街道が出来た頃またこの塔の前は万願寺方面へ通じる主要道路であった。そしてまだ時おり餓鬼に取付かれた者があったと見え、沢庵の伊藤賢行なる人が願主となり大栄寺27世隆道和尚の指示を仰ぎ、成仏出来ないでいる霊を慰めるため百万遍念仏の法要を執り行った。(塔には新津町4ノ町、金沢町の名前が記されている)

6 観音寺 新町2丁目



曹洞宗に属し正法寺の末寺で、聖観世音菩薩を本尊とした、慶長(1608年)市内山谷に一庵を創り新津家の持仏堂に安置されていた聖観世音菩薩を本尊とした。元和元年(1615)正法寺六世の尊山文能大和尚が退隱の為、観音庵を山号福聚山、観音寺と改め独立寺院となったものである。文政元年と明治41年の二回に亘る火災で焼失し、大正2年(1913)現在の町に移転し再建を完成し現在に至る。観音寺参道には右側に聖観世音菩薩像と左側に地藏菩薩像が向いあつて建てられている。観音寺は蒲原33観音10番札所となっている。

7 子安院(通称鬼子母神様) 新町2丁目



日蓮宗で本尊を鬼子母神とする、日蓮宗信者が市内柄目木の真柄氏に引取られ宅地内の田の島に小さな堂を造って安置し一心庵と称したが火災に遭い、一旦は東島の妙蓮寺鬼子母神堂へ移ったが、明治18年になって妙本寺二十六世徒弟山田順要が現在の地に子安院で、現在に至り小兒保護の神として信仰が厚い。